

いしかり砂丘の風資料館 20 周年記念体験講座「勾玉・管玉をつくる」

ー石狩市内遺跡の出土遺物をモデルにした講座マニュアルー

Hands-on workshop for the 20th anniversary of Ishikari Local Museum :
"Making *Magatama* (comma-shaped beads) and *Kudatama* (tubular beads)"

-The manual based on the artifacts excavated
from the archaeological sites in Ishikari City -

荒山 千恵*
Chie ARAYAMA*

キーワード：勾玉，管玉，志美 4 遺跡，紅葉山 33 号遺跡，体験講座

1 はじめに

本稿は、いしかり砂丘の風資料館 20 周年記念体験講座「勾玉・管玉をつくる」で実施した講座内容をまとめたものである（以下、館名を略し「資料館」と表記）。開催日時は、2024（令和 6）年 10 月 20 日（日）10:00～12:30、場所はいしかり砂丘の風資料館である。資料館スタッフと共に、いしかり砂丘の風の会（資料館ボランティア）の協力のもとに開催した。

これまでに資料館で開催した体験講座「勾玉をつくる」は、いしかり砂丘の風の会主催により実施してきた。その初回は、資料館が開館した初年度の 2004（平成 16）年 8 月 29 日に遡る。以来、毎年夏季を中心に 2019 年まで開催されてきたが、2020（令和 2）年度の新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、当該講座もしばらく休止が続くこととなった。その後、徐々に講座を再開し、資料館の開館 20 周年記念特別展「石狩十大事件何が現在の石狩をつくった？」（期間：2024 年

7 月 19 日～11 月 10 日）の展示の中で、石狩市志美 4 遺跡から出土した勾玉や紅葉山 33 号遺跡から出土した管玉を展示することとなった（石狩町教育委員会 1979, 1984; 木村 1975）（図 1）。その一環として、体験講座「勾玉・管玉をつくる」を企画し、いしかり砂丘の風の会の方々の協力のもと、資料館主催により実施することとなった。以下に、体験講座「勾玉・管玉をつくる」の講座内容をマニュアルとしてまとめる。



図 1. 特別展に展示した勾玉・管玉

* いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町 30-4

2 講座の流れと勾玉・管玉の製作手順

本講座では、まず、特別展に展示中である石狩市内の遺跡から出土した志美4遺跡（石狩市新港東／縄文晩期）の勾玉，紅葉山33号遺跡（石狩市花川南／続縄文前半期）の管玉について，製作する勾玉・管玉のモデルとなる実物資料を観察した（図2，図3）。



図2. モデルにした勾玉
石狩市志美4遺跡（縄文文化晩期）
長さ3.7cm

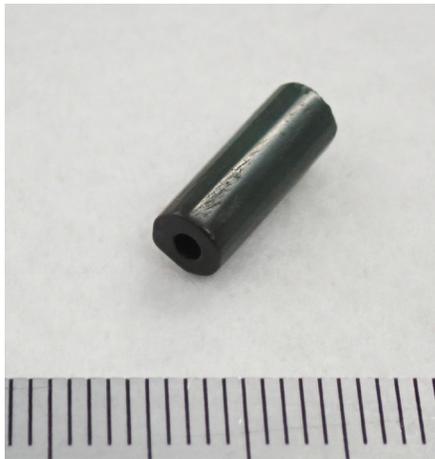


図3. モデルにした管玉（片端は折損）
石狩市紅葉山33号遺跡出土（続縄文前半期）
現存長さ1.25cm，外径0.46cm

次に，使用する材料と道具を確認した．石材は勾玉づくりの体験教材として一般的に利用されている滑石（軟らかく削りやすい）を使用した．管玉1個分，勾玉1個分に必要な大きさにカットしたものである．管玉用の石材は，角柱状に切り出したもの（大きさ：長さ2.0cm・小口面1.2cm×1.2cm）で，小口面に紐通しの孔が貫通したものをを用いた．勾玉用の石材では，厚みのある板状の直方体（大きさ：長さ3.7cm・幅2.0cm・厚さ1.0cm）の片側に紐通しの孔が貫通したものをを用いた．勾玉用の石材には，本講座でモデルとする勾玉の実測図をもとに，輪郭を予め石材の表面に転写した．このほか，粗さの異なる紙やすり3種（粗削り用・整形用・研磨用（耐水性）），感熱紙（艶出し），ワックス，紐，ビニール袋，円柱型の棒（鉛筆・竹箸など），2ツ折の厚紙，たらい，水，タオルを使用した．

本講座では，勾玉と管玉の両方を一つの講座内で作ったため，「第1工程：管玉（1個）の粗削り（成形）・整形」（30分程度），「第2工程：勾玉（1個）の粗削り・整形」（60分程度），「第3工程：管玉・勾玉の磨き・仕上げ・紐通し」（30分）の流れで実施した．本稿では，管玉と勾玉をそれぞれに分けて講座用の製作工程を示す（図4，図5）．製作工程の写真は，講座前に実施した試作品の製作記録によるものである．試作品の製作では中村采音氏にご協力いただき，各工程の写真は荒山が撮影した．また，製作手順や方法については，いしかり砂丘の風の会による講座で蓄積してきた実施方法を踏まえ，本講座で実施した実物資料をモデルにした製作による基本的な手順をまとめた．

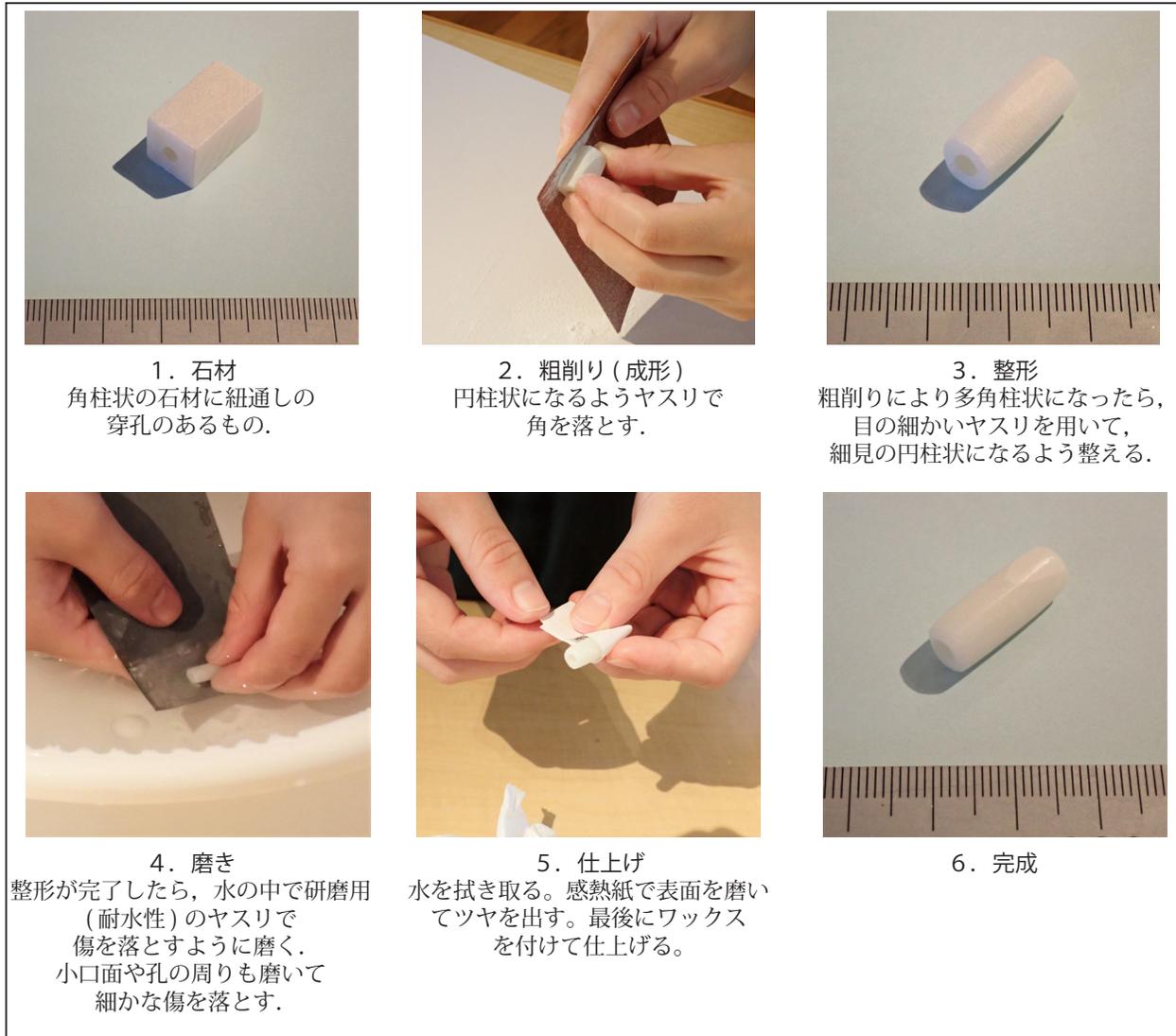


図4. 管玉づくりの手順(講座用)



図5. 勾玉づくりの手順(講座用)

3 おわりに

令和 6 年度に開催した体験講座「勾玉・管玉をつくる」では、石狩市内の遺跡から出土した勾玉・管玉の実物資料を対象に、それらをモデルにした実物観察を通して体験製作を実施した。身近にある遺跡から出土した勾玉や管玉を間近に観察しながら体験製作することで、地域の歴史・文化に興味をもち、当時の石製品（玉類）の加工技術や遠方との物流などについて考える機会にもなった。

本講座は前述のとおり、いしかり砂丘の風の会が長年にわたり開催してきた「体験講座 勾玉をつくる」が基盤となっている。勾玉づくりや管玉づくりの体験製作は全国各地で広く実施されるものとなっており、本講座も製作方法そのものは一般的な講座と大きな違いはない。一方で、講座としての準備・手順、製作時の講座参加者へのサポートの工夫など、これまでの多くの経験と積み重ねによって、子どもから大人までを対象に、誰もが参加しやすく、かつ、時間内に一定の精度を保った完成品まで仕上げることができる内容となった。開館初年度から続いてきた体験講座を通じて、資料館を利用される多くの方々との繋がりが生まれてきたことでもその意義は大きい。本講座のマニュアルを、これまでの経験を踏まえて記録にまとめることで、今後も文化財の教育普及活動が継続的に展開できるよう活かしていきたい。

謝辞：本講座の開催ならびに事前準備にあたり、下記の方々にご協力を賜り、大変お世話になりました。末筆ながら心より御礼申し上げます。石橋孝夫、加藤和子、嘉山千寿子、工藤義衛、倉 雅子、小池久恵、坂本恵衣、菅原順子、中村采音（氏名は五十音順）

引用文献

- 石狩町教育委員会，1979. 石狩湾新港地域開発区域埋蔵文化財発掘調査報告，SHIBISHIUSU II. 石狩町教育委員会．
- 石狩町教育委員会，1984. 紅葉山 33 号遺跡，紅葉山砂丘における続縄文時代前半期の墓地発掘の記録．石狩町教育委員会．
- 木村英明，1975. 続縄文時代の墓壙群の研究—石狩町紅葉山 33 号遺跡の例一，資料篇 紅葉山 33 号遺跡調査団・石狩町教育委員会．

